

## クリーンよこすか作文の募集

「よこすかをよりきれいで明るい住みよい町にするために、どんなことが大切か」をテーマに「次世代を担う子どもたち」へ作文を募集しました。

市内小・中学生から13作品の応募があり、子どもたちの作品からは、「クリーンよこすか」への想いや、横須賀の未来に対する願いが感じられました。

学校名	学年	名前	作文タイトル
夏島小学校	3年	深堀 真永	「まちはゴミ置き場じゃない」
夏島小学校	5年	小辻 芽依	「クリーンよこすか作文」
夏島小学校	6年	亀田 直花	「横須賀市を明るい町に」
浦郷小学校	4年	川上 潤真	「ゴミについて考えてみました」
諏訪小学校	3年	須田 環	「よこすかをピカピカにしたい」
公郷小学校	4年	嘉山 心陽	「いつまでもキレイな横須賀に」
公郷小学校	6年	海野 咲音	「横須賀の海」
衣笠小学校	6年	桐山 幸	「ご近所さんの輪」
根岸小学校	6年	神谷 暖人	「環境のためにみんなで努力する」
大塚台小学校	3年	黒田 彩桜	「ペットボトルのゴミについて」
浦賀小学校	4年	石井 結之丞	「クリーン横須賀」
大楠小学校	5年	郷田 夏彩	「海をさまようプラスチック」
常葉中学校	1年	上田 紫暖	「きれいなまち、横須賀へ」

(学校順・敬称略)

## まちはゴミ置き場じゃない

夏島小学校 3年 深堀 真永

ぼくは、今年の5月11日土曜日に横須賀市役所前の公園で開さいされた、「すかGOMI第一回クリーンよこすかCUP」に、友だちにさそわれ一緒に出場しました。

前日下見をして、どこにゴミがおちているのかをたしかめました。

そして当日、二十組が出場しました。まさか仕事をしている人がさんかしていたのがおどろきました。勝てるのか不安になりました。

「よーい、ドン」スタートしました。カメラさんもいっしょについていってぼくたちをさつえいしていました。いい写真がとれたのかはわかりません。写真をとられているのでいっしょけんめいゴミを拾いつづけました。

ゴミがどこらへんにおちていたのかというと、道路の両サイドに小さいゴミ。がけの下にはライターや鉄やガラスやタバコがありました。

そしておわりがやってきました。おわりは公園の中もやっていいこととなりました。公園の中も、一つも見のがしません。うえきの下やものおきのかげとかをさがしました。友だちがおわり前に道具のハサミをみつけてビックリしました。

あっという間におわりました。けっかは一位、二位、三位、ランキングにははいりませんでした。でもまちのかんきょうやゴミがどこらへんにあるのかがわかったし、学べたのでよかったです。

ゴミ拾いはとても大へんです。こしもいたいのので、ゴミはぜったいにすてないでください。

## クリーンよこすか

夏島小学校 5年 小辻 芽依

わたしは、よこすかを明るく、住みやすくするにはあいさつがとても大切だと思います。理由は三つあります。

一つ目は、あいさつをするとコミュニケーションがとれ、きもちがかるくなることです。

わたしが小学四年生の時に近所のおばあさんに、「おかえり」と声をかけられた時、きもちがかるくなったことがあります、いいと思ったからです。

二つ目は、一つもかかわりがないと、よいとは言えないからです。例えば自分から、「おはようございます」と言って、むしされてしまうと、かなしくなってしまうからです。

三つ目は、あいさつから、いろいろな物へとかわっていくことができるからです。例えばあいさつをしていって、知りあうことができれば、ゆずりあいにかわっていくことができるからです。知らない人に話しかけたり、話しかけられるのがこわいなら、家族や友だちがいるときに、あいさつをしたりすることから始めて、あいさつができていくと思います。

以上のことから、よこすかを住みやすくするために、わたしはあいさつをすることが大切だと思います。

## 横須賀市を明るい町に

夏島小学校 6年 亀田 直花

私は、よこすかの町に住んできて、よこすかをよりきれいで明るい、安全な町にしたいなと思います。そのために大切なことは、三つあると思います。

一つ目は、ゴミのポイ捨てや、たばこのポイ捨てを無くすことです。実際に、ゴミやたばこのポイ捨ては法律違反とされています。廃棄物処理法第16条では、「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない」とかいています。これを違反すると、罰則として、5年以下の懲役、もしくは1,000万円以下の罰金、またはこれらが併科されます。ゴミ一つのポイ捨てが犯罪になるかもしれないので、町の人には注意してもらいたいです。

二つ目は、3Rについてです。近年、ゴミが増えていることが問題となっています。約22年後には、ゴミを埋め立てる場所が無くなってしまおうとも言われています。その対策として、3Rが適切だと思います。3Rは、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3つで、全て自分でできることです。リデュースでは、エコバッグを持参したり、フードロス無くしたりします。リユースでは、いらぬ物は人にゆずったり直したりします。リサイクルでは、資源回収にゴミを出したり、リサイクル製品を買ったりします。日頃から3Rを心がけることが大切です。

三つ目は、あいさつです。一つ目・二つ目はきれいな町にするためでしたが、三つ目は、明るい町にするためです。あいさつは、人と人とのふれあいで、町を明るく元気にするにつながります。みんながあいさつをし、気持ちのよい町にしたいです。

このように、町のゴミを減らしたり、あいさつをしたりすることは、きれいで明るい、安全な町にするために大切なことです。これからも、自分の住んでいるよこすかの町を、もっと知り、地域に貢献していきたいです。

## ゴミについて考えてみました

浦郷小学校 4年 川上 潤真

今までゴミの事について考えた事がなかったのですが、夏休みの宿題で考えてみる事にしました。

ボクのお父さんは、横須賀市ではない町で、ゴミ回収の仕事をしています。お父さんから聞いた話だと、ゴミにはたくさんの種類があって、処分の仕方が色々あると言っていました。ぼくは燃やして処分すると思っていましたが、それ以外にリサイクルできる物がたくさんあると聞きました。

プラスチックやペットボトル、あき缶やビン、あとは自転車もリサイクルできるんだよと言っていました。ペットボトルは新しいペットボトルに生まれ変わり、缶などの鉄はとかしてまた缶などの資源となるそうです。本やマンガが新聞やダンボール、洋服も同じく資源となると言っていました。

今までゴミはただのゴミだとしか思っていませんでしたが、お父さんの話を聞いて、こんなにもたくさんのゴミが生まれ変わっている事を教えてもらいました。ゴミの分別も大切だと教えてもらいました。分別できていないゴミはリサイクルできなくなると言っていました。

お父さんの話を聞いて、ぼくはゴミについてのいしきが変わりました。これからはリサイクルできるものはリサイクルし、ゴミの分別などをしっかりやっ  
て生活して行こうと思いました。

## よこすかをピカピカにしたい

諏訪小学校 3年 須田 環

わたしは、よこすかで生まれて、ずっとよこすかに住んでいます。よこすかは、海も山もあって、魚や野さいがとてもおいしいです。いろいろな国の人が住んでいたり、かんこう客がたくさん来たり、よこすかは明るく楽しいまちだと思います。母の友だちが、よこすかに遊びに来た時、「よこすかに住んでいていいね。」と言われてうれしかったです。

大すきなよこすかですが、ざんねんな事があります。それは、道にごみが捨てられているのをよく見る事です。食べ物をとり出したあとのプラスチックごみや、空きかん、空きびんがポイ捨てされています。空きびんがわれてガラスのはへんがちらばっていて、はへんをよけながら学校に行く時もありました。また、かんこう客が「よこすかってごみが多いね。」と話しているのが聞こえて、悲しい気持ちになったことがあります。

大すきなよこすかのまちや海をまもるために、自分に出来ることはないかと考えました。まずは地いきのごみひろい活動にさんかしようと思います。ごみをひろうだけではなく、地いきの人たちとこうりゆうして、さいがいがおこった時に助け合うことが出来るからです。また、家ぞくで家のまわりのごみひろいをする時間を作ろうと思います。わたしがごみ拾いをするようすを見て、まわりの人たちにも、よこすかをきれいにしようと思ってほしいからです。そして出かける時は、自分で出たごみを入れられるように、ふくろを持っていこうと思います。

よこすかをピカピカにして、よこすかに住んでいる人も、よこすかに来る人も、気持ちよくすごせるように、わたしも行動していきたいです。

## いつまでもキレイな横須賀に

公郷小学校 4年 嘉山 心陽

夏休み、毎日のお手伝いとして、お母さんから朝のゴミ出しをたのまれた。ゴミは2ふくろもあり、とても重かった。ゴミステーションに行くと、そこには入りきらないほどのゴミがあふれている日もあった。このことから、ゴミをもっと減らすことはできないのだろうか、と考えるようになった。そこで私は、「ゴミの減量化」について調べてみることにした。

調べてみると、大事なこととして「3R」という言葉が出ていた。リデュース・リユース・リサイクルのことだ。でも、最近では、「5R」という言葉も使われているということが分かった。ふえていたのは、リフューズ（断ると、リペア（修理して使う）という言葉だった。その中で、私がまず取り組みそうなものは、リデュースとリフューズだった。そこで私は、ゴミの減量化のために、実際に夏休みに二つのことに挑戦することにした。

まず、リデュースでは、出かける時には必ずマイバックと水筒を持っていった。買い物の時には、必要な分だけ買ってマイバックに入れて持ち帰るようにし、水筒を持つことで、よけいなペットボトルを買わなくてもすむようにした。また、うらが白いプリントはメモ用紙として夏休みの宿題の時に使った。

次に、リフューズでは、外食の時にハンカチやお手ふきを持っていくことで、紙ナプキンなどをもらわないように心がけた。

ゴミの減量化をすることが、地球温暖化を防ぐことにつながり、ゴミしよりにかかるひよりの節約につながることも分かった。そして何よりも、まちがキレイになると、生活する人も毎日気持ちよく生活ができ、心も体も健康になっていくと思う。だから私は、この「5R」をこれからも続けることで、私のすむ横須賀をいつまでもキレイなまちにしていきたい。

## 横須賀の海

公郷小学校 6年 海野 咲音

私は自然に恵まれた横須賀が大好きです。特に海は最高で、夏は家族で海へ行き、SUPをすると、風を感じてとても気持ちいいです。シュノーケリングで見つけるチョウチョウウオがお気に入りです、青や黄色のしましまの魚が群れで泳いでいて、水中めがねで見る景色は自分も魚になった気分になり楽しいです。沢山あそんだ後、のんびり見るサンセットは、キラキラの海とオレンジにそまった雲と空がきれいです。

そんな私の好きな海も、砂浜に目を向けるとゴミがあります。レジャーに出てすてられてしまったゴミが流れついたゴミ。海の生き物のお腹の中からこのようなゴミが発見されるニュースなどをみて、深刻さをしました。

このままではいけないと思い、自分に何ができるか考えました。そんな時、友達と一緒に海に行く機会がありました。その友達は、海に行った時には簡単なビーチクリーンをするそうで、その日も砂浜に落ちている沢山のゴミを拾い集めていました。私にもできることが見つかりました。その日から私も見習って、海に行き、帰るまで、落ちているごみを拾うことにしました。小さな力ですが、行くたびに続けています。そして私と同じように、ビーチクリーンをしているすがたをみて、海をきれいにしたいと思う気持ちの輪が広がればいいと思いました。

かわいい魚たちが、安心して暮らせるビーチを、みらいへのこしていきたいです。



## ご近所さんの輪

衣笠小学校 6年 桐山 幸

私の家のおとなりは人が住んでいません。その他にもたくさん空き家があります。しかし、近所のごみ捨て場や歩道にある花だんはいつもきれいです。なぜきれいな状態が続いているのかを私は知っています。

学校からの帰り道、よくご近所さんが花だんの雑草ぬきをしていたり、木の枝を切ったりしているところを見かけます。また、ゴミ捨て場には、ネットの上にゴム付きのカバーがあり、近くのフックにかけるとカラスがはずせないようになる手作りのカラス対策があるのです。

私の祖父は、休日に庭の手入れをしています。始めは家の周りをしていますが、気付くと歩道や花だんの所まできれいにしています。このように、自分の目の前だけではなく、少しとなりまで広げてきれいにすることをしていくと、近所から町内、町内から横須賀市全体へと広げることができ、市全体に、みんなが過ごしやすいきれいな環境が生まれるのではないかと私は考えます。

しかし、私と母は祖父がしているのを見ているだけなので、これからは、母もさそって祖父の手伝いができればいいなと思いました。

みなさんも横須賀市のため、自分のくらす町のためだと考えて、少しずつきれいにしていきませんか。近所の人達と協力してきれいにし、「ご近所さんの輪」を広げていきましょう。

## 環境のためにみんなで努力する

根岸小学校 6年 神谷 暖人

最近、お店で会計するとき「レジ袋は有料です。」とよく耳にします。この取り組みは、令和2年ごろから、プラスチックさく減、海洋汚染抑止のためおこなわれています。他にも紙ストロー、袋、エコバックなどの工夫の取り組みがあります。私はこのことをニュースで聞き、地球暖温化、海洋プラスチック問題という言葉も知りました。

まず、地球温だん化は6年生の理科でもやった火を燃やすことで二酸化炭素が生まれ、プラスチックだとより多く排出し、地球温暖化、かんきょう悪化につながります。

次に海洋プラスチック問題は、プラスチックなどが海にたどりつき、波によって小さくなったものが、「マイクロプラスチック」といい、海の中でも小さく残り、分解されにくいです。これをエサとかんちがいした魚が食べ、死んでしまい、人間も食べるものがなくなってしまいます。また、プラスチックの原料による海の汚染も発生します。年間、約800万トンという大量のプラスチックが海に流れています。

このようなことをふまえ、自分達にできることを考えました。レジ袋はそのまま捨てず、ゴミ袋などにして利用して捨てる。プラスチックゴミは、とばされたりしないよう工夫し、確実に処理する。ペットボトルではなくマイボトルを持参するようにする。このように、一人一人が環境に対して関心を持ち、小さな努力をみんなで行い、地球の環境を良くしていきたいです。自分達にできることは限られているけど、「言われたらやる」ではなく、自主的に努力をつみ重ねていくことが重要です。未来のためにも今から環境に対して意識を持ち生活したいです。

## ペットボトルのゴミについて

大塚台小学校 3年 黒田 彩桜

みなさんは、ペットボトルのゴミ問題について知っていますか。川や海、道などにすてられていて、これは世界だけでなく、よこすか市も同じことになっています。

このままにしているとかんきょうがきたなくなってしまうです。それをふせぐためには、ペットボトルのゴミをへらすことが大切だと思いました。なので、わたしはリサイクル方ほうと、へらすくふうについてみなさんにつたえます。

ペットボトルは日本で、年間、230おく本つくられていて、その内、リサイクルされているのは86.9パーセント。そのリサイクル方ほうは、服やカーペット、そしてまた新しくペットボトルに生まれかわるという方ほうがあります。ですが、その半分はエネルギーとなってしまうです。エネルギーにするとき、二さんかたんそというものがでてしまいます。ポイすてされたペットボトルは、だれかがすてないかぎり、リサイクルされることはなく、のこってしまいます。そうすると、私たちがすんでいるまちのかんきょうがきたなくなってしまうです。

さいごに私は、みなさんに2つのことをていあんします。

1つ目は、外に行くときに家からなかみが入った水とうを持ってくること。

2つ目は、ポイすてをしないこと。みつけたら拾ってあげることが大切です。すこしでもかんきょうをよごさないために、みなさんもくふうしてみましよう。

## クリーン横須賀

浦賀小学校 4年 石井 結之丞

これからクリーン横須賀について の作文を始めます。

ぼくは、 サマーチャレンジのプリントから、クリーンよこすかを選択しました。その中で、街への視点が変わりました。

今までは意識の行かなかったポイ捨てるのゴミや、ペットのフンなどに気付きました。思っていた以上に沢山ありました。でも、どうしたらゴミをへらせるんだらうと考えました。

街でチームを作ってゴミを集めるのはどうだろう、でも人が集まらないかもしれない、と考えたときに、一人一人スーパーのレジぶくろを持っていれば、ゴミを拾えるのでいいと思いました。そうすれば負担が少なく資源のリサイクルとして有料化されたレジぶくろもまた利用されて、街もきれいになると思いました。そして街も明るくなれば心も明るくなり、ポイ捨てる人もいなくなると思いました。

そのためにはあいさつ運動を心がけるといいと思いました。なぜかという、あいさつをして返してもらった時に、心が気持ちよくなったからです。

## 海をさまようプラスチック

大楠小学校 5年 郷田 夏彩

あなたは、「マイクロプラスチック」という言葉を知っていますか。「マイクロプラスチック」とは、海に捨てられたプラスチックが長い時間をかけてぶつかり、日をあび、5ミリメートル以下になった物をいいます。この横須賀の海にも、想像をこえる多くの「マイクロプラスチック」があります。そして、世界中に存在します。生き物たちは、「マイクロプラスチック」「プラスチックゴミ」で大きな被害をうけています。海の生き物たちは、エサとまちがえてプラスチックを食べてしまい、死んでしまうこともあります。私たちがゴミを捨てると、生き物たちは泣いています。そして、私たち人間にも、影響がおよびます。プラスチックを食べた魚を私たちが食べると、プラスチックは私たちの体内へ入ります。現在、人は1週間にクレジットカード1枚分のプラスチックを食べているといわれています。

世界の海洋ゴミの80パーセントは、プラスチックです。そもそも、なぜプラスチックゴミがふえたのでしょうか。その理由の1つ目は、プラスチックは軽く丈夫で、原料が安いので、多くの物に使用されたことです。ビニールぶくろ、ペットボトルの他にも、パソコンやスマホにも使われています。2つ目は、プラスチックは一生自然に返らないことです。便利なことと引きかえに、海をよごしていくのです。そのため、このままプラスチックゴミをふやすと、海はプラスチックでどんどんよごれ続けてしまいます。

今、地球がかかえている海洋ゴミ問題。海が近い横須賀で少しずつ解決していきませんか。ポイ捨てはもちろんせず、できるだけゴミをへらしましょう。そして、プラスチックゴミのことを知ってもらうことで、きっとすてきな横須賀になると思います。海がきれいな横須賀をつくっていきましょう。

## きれいなまち、横須賀へ

常葉中学校 1年 上田 紫暖

私たちが住む横須賀、主に横須賀中央周辺はゴミが多く落ちている。特に駅ビル（モアーズシティ）の周りの道にタバコや紙きれ、ペットボトルなどが落ちているのを多く見る。これらのまちのゴミをなくすために、私から2つ提案したい事がある。

まず1つ目は、ゴミ拾いの活動にボランティアとして参加する事だ。昨年、私は諏訪小学校の生徒であり、総合的な学習の時間にゴミについて学んだ。具体的には、ゴミが環境にもたらす害について調べていて、その授業の一環として、うみかぜ公園にゴミ拾いをしに行った。陸にはBBQ場があり、空き缶や手持ち花火などのゴミが多く落ちていた。協力してくれていたリフレックス社さんにゴミを分析してもらおうと、やはりプラスチックゴミが1番多く落ちていた。また、海も近いため金属性の釣具が落ちていて、人にも動物にも危険だと思った。これらが海に落ちると、海の生き物が食べてしまうかもしれないし、なにしろ溶けないから海では分解できない。だから、まずは私たちが出した陸にあるゴミをなくすべきだと思った。

もう1つは、ゴミを各自で持ち帰る事だ。「じゃまだし汚いからポイ捨てをするんだ！」だからみんなポイ捨てをすると私は考える。まちや環境にゴミがどれだけ悪いかを知ってもらうのが一番だけれど、自分の家がゴミで埋め尽くされる前にきれいにしなければ、という意識で、各自で自分のゴミを持ち帰ってもらいたい。そのために、カバンにちょっとした袋を入れて過ごしてほしいと思った。

横須賀をきれいに、また、きれいを保つためには一人一人の意識が大切だと考える。そのためには、まずは自分で提案した事を率先して行い、「きれいなまち、横須賀」への一步をふみ出せばいいなと思った。